

まいつるパート II

令和4年度 No.8 校長室だより

通算No. 8 (R4. 7. 15)

霧島市立国分小学校長

☆ 子どもに直接的な体験活動の推進を ☆

直接的な体験活動には、**生活体験**（遊び・手伝い・家庭や地域での年中行事への参加）、**自然体験**（山や川、海等での活動）、**社会体験**（地域でのボランティア活動、職業体験、異年齢での交流体験等）などの主に3つに分けられると考えられます。

これらの活動を年齢（発達）段階で適切に体験させることで子どもはよりよく成長します。

様々な直接的な体験をすることにより「**体験の力**」（**自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、職業意識、人間関係能力、文化的作法・教養**）が向上するといわれています。

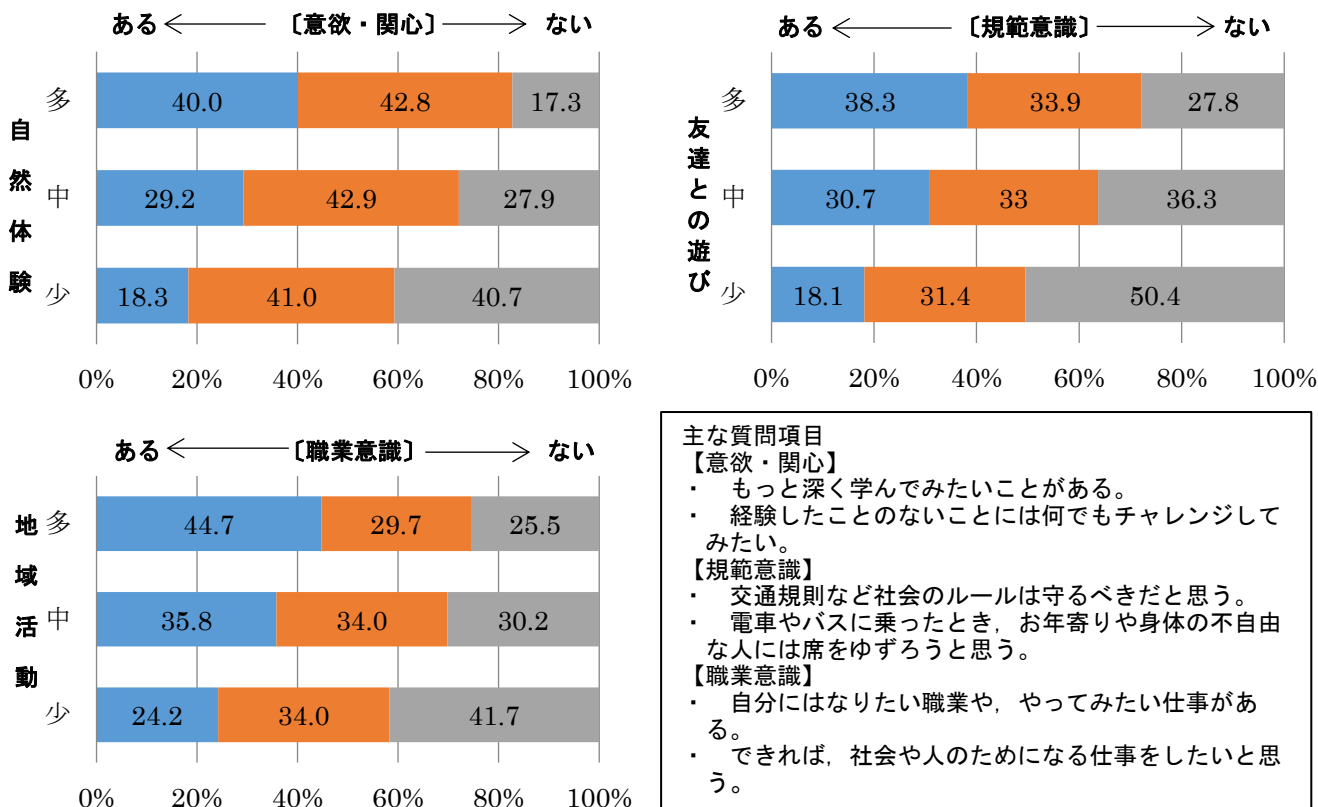
特に、小学校高学年から中学生の時期に、いかに学校外での多様な活動を豊富に実践するかで、その後の生き方にも大きく影響を受けることが各種の調査で明らかになっています。（※1）

勉強や習い事等もちろん大事ですが、**地域での活動**（子ども会活動・地域行事への参加・参画、伝統文化の継承、異年齢での交流等）や家事手伝いなどに、**意図的に取り組ませる**ことが大切です。



↑ 宿泊学習より

（※1） 体験量と「体験の力」の関係（子どもの体験活動の実態に関する調査研究（H22.10）より）



※ グラフの見方

縦軸は、自然体験、友達との遊びの経験、地域活動の経験の割合がそれぞれ「多い→中くらい→少ない」を示しており、例えば、自然体験が多いほど物事に対する意欲・関心が高く、少ないと低いということが分かります。

豊富な体験を積んだ子どもほど、**意欲や関心が高まり、学力向上にもつながります**。間接的な体験である読書活動などとも絡めて、家庭だけでなく、地域全体で子育てに取り組む環境をつくっていききたいものです。

さて、いよいよ夏休みです。子どもたちが家庭・地域にかえっていきます。ぜひ、この貴重な期間・時間を有意義なものにしていきたいと思います。（感染症対策の継続もお願いします！）

※現在、コロナウイルス陽性者や濃厚接触者が多くの学級で発生しています。上や下のきょうだい関係から感染したケースがほとんどとなっています。今後も基本的な感染症対策（うがい・手洗い、マスク、消毒、換気等）の継続をお願いします。特に、家族でPCR検査を受けることになった方がいらっしゃるのに、登校していき急きょ下校させる事例もあります。本人や家族に風邪症状のある場合も含め、拡大防止にご協力ください。

学校教育目標「胸を張って堂々と生きる」 青少年赤十字の目標「気づき・考え・実行する」